九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

シンポジウム ： 情報管理組織のミッションと専門職養成

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院 ： 教授

大沼, 太兵衛
国立国会図書館

平野, 泉
立教大学共生社会研究センター

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館学術サポート課長

https://doi.org/10.15017/4738541

出版情報：2021-11-27. 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
バージョン：
権利関係：

九州大学大学院 統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻

Kyushu University Library

報告コメント：
大学図書館の現場から

九州大学附属図書館 学術サポート課長
大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻 准教授
渡邊 由紀子

2021年11月27日（土） 九州大学伊都キャンパス 中央図書館4階きゅうとコモンズ
シンポジウム「情報管理組織のミッションと専門職養成」
主催：ライブラリーサイエンス専攻，九州西洋史学会

アウトライン

1. 自己紹介
2. 図書館の「公共性」とは
3. 大学図書館のミッションと取組事例
4. 大学図書館員の人材養成とキャリアパス
5. まとめ

自己紹介

- 九州大学文学部史学科（西洋史学専攻）卒業
- 国立大学の図書館員
  - 琉球大学→九州大学→宮崎医科大学（当時）→九州大学
- 2010年　博士（学術）九州大学大学院システム情報科学府
- 2011年～ ライブラリーサイエンス専攻（LSS）の専任教員兼務
- 2012年～ 文学部司書養成課程の専任講師兼務
- 学外活動
  - 福岡市総合図書館運営審議会委員，福岡共同公文書館運営専門協議会委員，日本図書館協会図書館情報学教育部会幹事， 国立国会図書館2013年度調査研究委員，国立国会図書館レファレンス・サービス研修講師 など
- 専門分野：図書館情報学

九州大学附属図書館
Kyushu University Library

九州大学大学院 統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻

2018.10.1
GRAND OPENING
九州大学中央図書館
Kyushu University Central Library

図書館の「公共性」とは

三つの「公共性」と図書館の関係（糸賀2013）

英語	official	common	open
意味	国家に関係する公的なもので，法や政策などを通じて国民に対して行う活動	すべての人びとに関係する共通するもので，共通の利益・財産，共通に妥当する規範や共通の関心事など	誰に対しても開かれているもので，誰もがアクセスすることを拒まれない空間や情報など
用例	公共事業，公共投資，公的資金，公教育	公共の福祉，公益，公共の秩序，公共心	公然，情報公開，公園
図書館	国ないし地方公共団体といった公権力による裏付けをもって制度化される	一般に「外部効果」があり，人びとに共通の利益（公益）をもたらす	公開を原則とし，一部に入館制限はあっても，利用者を差別しない

（齋藤純一『公共性』岩波書店, 2000, p. viii-ix をもとに作成）

出典：糸賀雅児, 薬袋秀樹編集. 図書館制度・経営論. 樹村房, 2013, p. 101.

大学図書館の「公開性 (openness)」

- オープンサイエンスの潮流
  - 政策的課題：オープンアクセス，オープンデータ
- 開かれた「場」の提供
  - 高等教育改革：アクティブラーニングを推進するラーニングコモンズ等の設置
- COVID-19パンデミックの影響
  - 「図書館資料のアクセスへの物理的障壁を極めて強烈に可視化」（前田2021）
  - 学術情報資源デジタル化の促進
  - 非来館型サービスの拡充

⇒ 「公開性」を保証するために機能拡張が必要

Ref.) 前田麦穂. コロナ禍は資料アクセスをどう変えたか～研究者・学生の緊急アンケートから著作権法改正まで～. 図書館界. 2021, 73(2), p. 61-67.

大学図書館のミッション

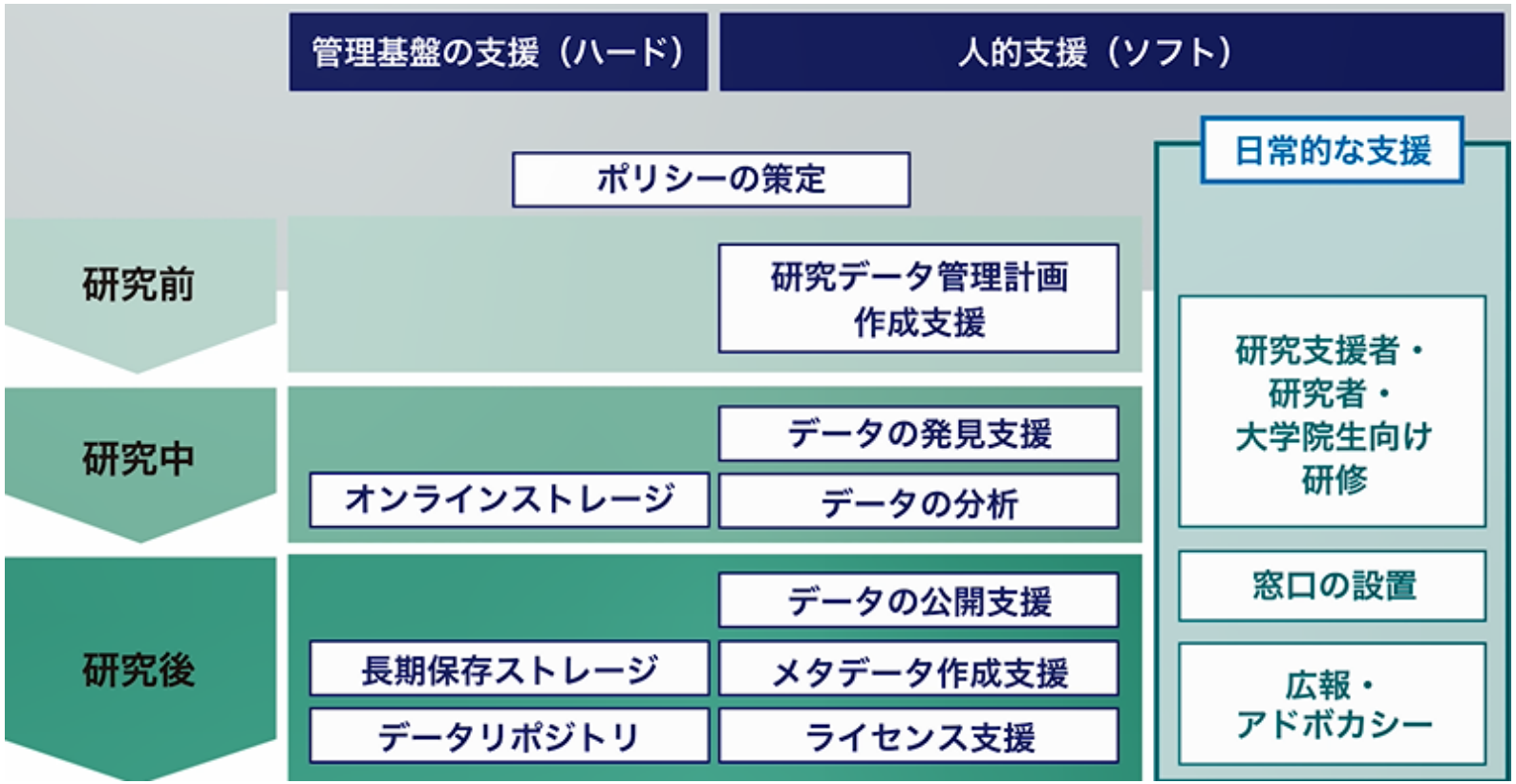
JANUL

- 国立大学図書館協会ビジョン（2020→2025）
  - 「国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2025～」（ 2021.6）
    https://www.janul.jp/ja/organization/vision2025
  - 基本理念

    国立大学図書館は，社会における知識基盤として，デジタル・非デジタルを問わず，知識，情報，データへの障壁なきアクセスを可能にし，それらを利活用するための環境を利用者に提供することで，教育の質保証，研究力やイノベーション力の強化を推進する国立大学の教育研究活動を支え，社会における新しい知の共有や創出の実現に貢献する。
  - 重点領域
    1. 知の共有：蔵書を超えた＜知識や情報＞の共有
    2. 知の創出：新たな知を紡ぐ＜場＞の提供
    3. 知の媒介：知の交流を促す＜人材＞の構築

知の共有：研究データのオープン化

研究データ管理サービス（RDMS）＝研究者により生み出される研究データを適切に管理できるよう、研究を支援するスタッフが協働で必要なサービスを提供すること

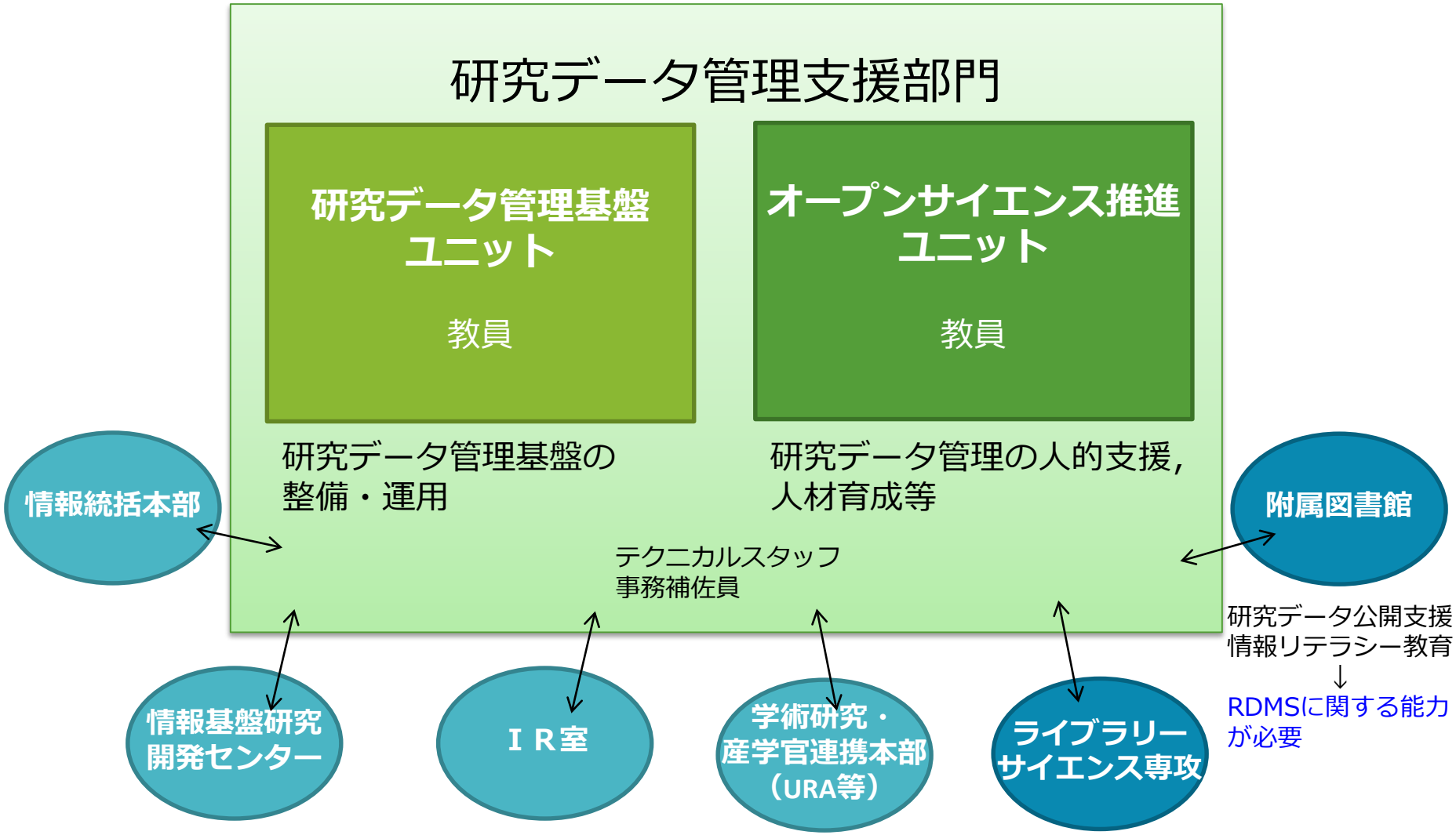


出典：吉田幸苗ほか. 教材「研究データ管理サービスの設計と実践」第2版. 2021. (第1章, スライド22)
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607

九州大学DX構想と研究データ管理支援

- 「データ駆動イノベーション推進本部」（DX推進本部）構想
- 3つのDX推進
  - 教育DX（オープンエデュケーション）
  - 研究DX（オープンサイエンス）
  - 健康医療DX（医療サービスの高度化）
- DX推進本部の体制（予定）
  - 本部長（総長），副本部長（理事・副学長），ディレクタ（教授級）の下に7部門
  - 研究データ管理支援部門の設置

研究データ管理支援部門の体制（検討中）



知の創出：「場」の提供と運用

- 知の共有地となる「場」の提供
  - ラーニングコモンズ等の設置
    - 大学図書館のアクティブ・ラーニング・スペース設置率（文部科学省2020）：557大学(69.5%)；国立98.8%，公立50.0%，私立68.4%
  - 学習・教育・研究・交流の場
  - 社会・地域に開かれた場
  - 人的支援による活動の活性化が重要
- COVID-19パンデミック下の利用制限
  - ネットワーク上の情報空間への移行が加速
  - 物理的な「場」の重要性を再認識

Ref.) 文部科学省. 令和2年度「学術情報基盤実態調査」について（概要）. 2020, https://www.mext.go.jp/content/20210317-mxt_jyohoka01-000010396.pdf

人的支援による「場」の活性化

九州大学附属図書館の図書館TA（Cuter）と協働した学習支援活動

学習相談（デスク/Web）

学部1年生向け講習会（対面/遠隔）

2021年度国立大学図書館協会賞受賞

図書館員がハブとなり，学生協働，教職協働，学内関連部署と連携

↓

多様な人材と協力し，学習・教育を支援する能力が必要

学際交流イベント（対面/遠隔）

Web学習ガイドCute.Guides

Ref.) 九州大学附属図書館. “図書館TA(Cuter)と協働した学習支援活動により国立大学図書館協会賞を受賞”, 2021.7.19, https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/janul-award-56th

知の媒介：変化に応じた人材養成（竹内＆國本2020）

- 大学図書館機能の変化
  → 大学図書館員に求められる知識やスキルの変化
  - 1980年代～2000年代初頭：メディア/コンテンツの電子化＝研究基盤整備
  - 2010年代前半：ラーニングコモンズの導入＝教育・学習支援
  - 2010年代後半：オープンサイエンスへの関与＝研究支援
- メディア/コンテンツ中心の基盤整備
  → 人を中心においた教育・学習・研究支援の活動展開
  - これまで蓄積してきた知識やスキルの上に，連続的に知識やスキルを積み重ねていくだけでは不十分
  - 改めて体系的に新しい知識やスキルを身につける機会が必要
  - 大学図書館員自身の自覚，リーダーシップ，組織のあり方の問題

Ref.) 竹内比呂也, 國本千裕. 大学図書館機能の変化に対応する新しい大学図書館員の育成に関する考察. 大学図書館研究. 2020, (114), p. 2062-1-2062-11. https://doi.org/10.20722/jcul.2062

LSS教育研究上の理念と養成する人材

【理念】 ユーザーにとって真に意義ある情報の管理・提供の実現

情報の管理・提供に興味を持つ，修士課程修了者

情報の管理・提供に携わる社会人

情報の管理・提供に興味を持つ，学部卒業者

【博士課程】 2013年4月開設，入学定員3名

情報の管理・提供に関する課題を解決し、ライブラリーサイエンスを深化・発展させる人材（研究者）の養成

① 図書館情報学，アーカイブズ学，情報科学をカバーするT 字型の研究能力の養成

② ユーザーの視点に立って、意義ある情報の管理・提供を考察する能力を養成

③ 従来の枠組みにとらわれずに、情報の管理・提供に関するより良い枠組みを探究する能力を養成

【修士課程】 2011年4月開設，入学定員10名

情報の管理・提供の場で実践的に活躍する人材の養成

① ユーザのニーズと知の創造・継承プロセスを把握させる教育

② 図書館情報学とアーカイブズ学を統合した一体化教育

③ 情報の管理・提供を実現する情報通信技術の教育

④ 情報法制と情報流通制度に関する教育

⑤ 情報の管理・提供の在り方，ライブラリーの新たな機能を探求する能力の養成

大学等の教育・研究機関

ライブラリーサイエンスを深化・発展させ，人材養成を行う大学等の教員

情報の管理・提供組織

情報の管理・提供の新たなモデルを提案し，組織を牽引するリーダー

- 公文書館
- 記録管理の専門企業
- 図書館
- 情報サービス関連企業
- 情報通信技術関連企業
- 研究機関

LSSカリキュラム（2021年度）

【修士課程】修了要件 36 単位以上

学府共通科目

統合新領域最先端セミナー

英語科学論文の書き方と国際会議でのプレゼンテーション技術

特別研究

特別研究Ⅰ・Ⅱ

基礎科目

ライブラリーサイエンス概論

PTL・インターンシップ科目

ライブラリーサイエンスPTLⅠ・Ⅱ
インターンシップ

専門科目（選択）

図書館情報学

- 情報マネジメント論
- 図書館マネジメント論
- 学術情報流通論
- 図書館行政論
- レファレンスサービス論
- ライブラリー資料論
- ライブラリー特殊資料論

アーカイブズ学

- 情報資源保存論
- 文書記録マネジメント論
- 文書記録管理政策論
- 公文書評価選別論
- 文書記録サービス論
- 文書記録活動論
- 文書記録資料論
- 文書記録特殊資料論

情報科学

- LSS特別講義Ⅰ・Ⅱ
- 数理統計
- 電子資料開発論
- 情報評価分析論
- 情報セキュリティ論
- データマイニング
- 情報システム論
- 構造化文書運用演習
- データベース演習

その他の専門科目

- 学習科学
- 情報サービスと著作権
- 現代情報法制論
- 質的データ分析

※ 本学府他専攻，および他学府の科目も可（合計4単位まで）

【博士課程】修了要件 14単位以上

ライブラリーサイエンス特別研究
ライブラリーサイエンス特別演習
ライブラリーサイエンス講究

※ 基盤的知識・能力が不足する場合、修士課程で開設されている授業科目を履修するよう指導

LSS教育研究活動のフィールド

九州大学伊都キャンパス（イーストゾーン）

LSSと連携した九大図書館の人材養成

- 図書館を教育・研究のフィールドに
  - 図書館の施設や資料を利用した演習
  - 図書館の現場の課題をテーマにしたPTL
  - インターンシップ
- 図書館員が教員や講師に
- 図書館員が学生に
  - 在職したまま就学可能（変形労働時間制適用，人事交流）
- 学生が図書館員に
- 共同プロジェクトの実施
- シンポジウム等の共催

⇒ 大学図書館員養成のための新たな仕組みを構築

Ref.) 有川節夫, 渡邊由紀子. 変わりゆく大学図書館員の役割. 情報の科学と技術. 2014, 64(6), p. 200-206.
https://doi.org/10.18919/jkg.64.6_200

大学図書館員のキャリアパス

- 「審議のまとめ2010」の提言
  - 優秀な専任職員を確保する観点からも，そのキャリアパスの形成について検討が必要
  - 事務系職員とは異なった枠組みを考える必要
  - 様々な職種の人材を採用
  - 多様なキャリアパスの展開
- 国立大学図書館員の人事制度（九大の例）
  - 事務系職員の中で「図書系職員」として採用・異動
  - 定期的な人事異動によるジェネラリスト育成
  - 全国・地区ブロック異動が原則の管理職登用

⇒情報専門職としてのキャリアパスに関する検討は継続課題

Ref.) 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像. 2010.12,
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm

まとめ

- 大学図書館は「公共性」を備えた情報管理組織
- 「公開性」保証のために図書館の機能拡張は必須
- 新たな機能に対応できる人材の養成が急務
- 人材養成の新たな仕組みが必要
  - 教育組織と連携した教育研究，研修等
- キャリアパス形成の検討は継続課題

現場からは，以上です。

引用・参考文献

- 有川節夫, 渡邊由紀子. 変わりゆく大学図書館員の役割. 情報の科学と技術. 2014, 64(6), p. 200-206. https://doi.org/10.18919/jkg.64.6_200
- 糸賀雅児, 薬袋秀樹編集. 図書館制度・経営論. 樹村房, 2013, 216p.
- 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会. 大学図書館の整備について（審議のまとめ） －変革する大学にあって求められる大学図書館像. 2010.12, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm
- 国立大学図書館協会. “国立大学図書館機能の強化と革新に向けて～国立大学図書館協会ビジョン2025～”. 2021, https://www.janul.jp/ja/organization/vision2025
- 齋藤純一. 公共性. 岩波書店, 2000, 120p.
- 竹内比呂也, 國本千裕. 大学図書館機能の変化に対応する新しい大学図書館員の育成に関する考察. 大学図書館研究. 2020, (114), p. 2062-1-2062-11. https://doi.org/10.20722/jcul.2062
- 兵藤健志, 渡邊由紀子. 図書館職員をハブとした情報リテラシー教育の展開 ―九州大学の実践をもとに―. 大学図書館研究. 2017, (105), p. 50-60. https://doi.org/10.20722/jcul.1469
- 前田麦穂. コロナ禍は資料アクセスをどう変えたか～研究者・学生の緊急アンケートから著作権法改正まで～. 図書館界. 2021, 73(2), p. 61-67.
- 文部科学省. “令和2年度「学術情報基盤実態調査」について（概要）”. 2020, https://www.mext.go.jp/content/20210317-mxt_jyohoka01-000010396.pdf
- 吉田幸苗ほか. “教材「研究データ管理サービスの設計と実践」第2版”. 2021, https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/records/607